

すべての原発いまずぐなくそう！全国会議

第4号

2013.8.11発行

カンパ 50円

発行:NAZEN 事務局
東京都杉並区天沼 2-3-7-2A
info@nazen.info

NAZEN 通信



反戦・反核・反原発！ 夏のヒロシマ・ナガサキ特集号



↑朝 8:15 原爆ドーム前で黙祷



↑安倍は帰れ！朝デモで抗議 委員会

8/9 NAGASAKI

↓長崎市内をデモ！再稼働ゆるすな！



8/6 HIROSHIMA



←中国電力に再稼働・新規建設中止の申し入れ。



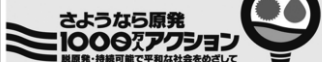
↑広島市内をデモ！「命をかえせ！」



↑平和公園で安倍弾劾のシュプレヒコール

再稼働反対！9.14
さようなら原発大集会
in 亀戸

9月14日(土) 11:00～
@亀戸中央公園
13:00～集会開始
15:15～パレード出発
主催:「さようなら原発」
一千万署名 市民の会



解雇撤回！外注化阻止！
9.15 総決起集会

9月15日(日) 13:00～
@代々木公園ケヤキ並木
(集会終了後にデモ)
主催: 動労千葉、
国鉄闘争全国運動



1200人のボランティアパワー★
参院選67万票で当選！

山本太郎さんと
みんなで勝ったぞ！
闘いはこれから!!!



- ◆ 8・5再稼働阻止・全原発廃炉
ヒロシマ世界大会報告 …2～7ページ
- ◆ 保養・避難の交流会報告 …8～9ページ
- ◆ 会計報告・保養カンパ/年会費のお願い…10ページ

8・5ヒロシマ世界大会報告

ヒロシマから



中島 健さん
(被爆二世、8・6ヒロシマ
大行動共同代表)

世界大会という名称は、8・6ヒロシマ大行動を始めて初めてです。多くの方に来ていただいて非常に感謝しています。

先日「安倍を招待するな、撤回しろ」と松井市長に申し入れをしたんですけど、「どんな人でも、ヒトラーでも来てもらうんだ」とまったくでたらめなことを言っているわけです。支配階級に見せたら、反省してこんな残忍なモノを使わなくなるという事なんてあり得ないんです。結局民衆の自分の手で、平和とか反核、原発を廃炉にすることを切り開くんじゃなくて、為政者がやってやるから、何もしなくていいということなんです。

私たちは数年来、欺瞞ぎまん的な式典を許さないと闘いをやってきましたが、本当にこういう式典は神聖でも何でもありません。地下に眠っている被爆者。慰霊碑に「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」と書いてありますが、安らかに眠れるはずがないんです。松井市長は、先日産経新聞で「原発と原爆について混同するのは困る」と言ったんです。彼は自分は被爆二世だ、「原発は平和のエネルギーだ」と。冗談じゃないんですよ。

私の母親は爆心地から2キロの舟入の三菱で被爆していますが、一般の被爆者と特別被爆者というのがあって、ABC C・放影研が2キロで線を引いて被爆者を分断していった歴史があるんです。被爆者のデータを独占して好き勝手に使う。いま福島でやろうとしてることもその通りです。

この世界大会を開催するに当たって、私たちは福島に連帯して、内部被曝を徹底的に明らかにするという問題と、戦後の被爆者の闘いの歴史をさらに発展させていくということ、国際連帯で原発を廃炉に、何よりも労働運動で原発を廃炉にとい

うことを掲げて闘ってきました。全世界にとどろくような闘いを、どの職場でも発展させてわれわれの手で原発を実現する。原発の廃炉を実現したいと思います。

ナガサキから



じょうだい みやこ
城臺 美彌子さん
(NAZENナガサキ)

被爆から68年、今年は二人の被爆者の運動をしている人が亡くなりました。本当に被爆者の記憶が風化されると自覚しました。

記憶の風化と言えば、一番くやしかったのが、核兵器の非人道性の問題にやっと世界中の人々がヒロシマ、ナガサキの被爆者の声に応えて声明を出しました。人間の生存に絶対に核兵器はあってはならない、そういう声明を出した。80カ国がそれに署名をしているのに、日本政府は署名をしませんでした。私たちは裏切られた思いです。被爆者を裏切り、国民を愚弄しています。今の安倍政権は何をしようとしているのでしょうか。

戦争のあと二年目にやっとできた平和憲法。私たちがこの平和を作りあげた一番大事な基本的人権、平和主義、戦争の放棄、それをくつがえそうとしています。あの人たちの政権は軍隊を知りません。軍隊がどのようなものであるか、軍隊は増殖していつの間にか日本はアジアに侵略を行った。しかし現憲法はこれを否定しています。憲法を今変えたら私たちの日本の将来はどうなるのでしょうか。それから原発を外国に輸出しようとしている安倍政権。本当に国民のことを考えているのでしょうか。私は福島の人たちとともに今後も歩み続けたい。「私たちの力は小さいけれど、無力ではない」と長崎の高校生が言っているのを本当に座右の銘にしたいと思っています。

フクシマから



椎名 千恵子さん
(3・11 反原発福島行動メモリアルデー・ふくしま共同診療所運営委員)

私は長崎の高島保養に参加させていただいて、放射能の心配のないところで子どもたちが人を信じ切ったのびのびと遊びきる姿を見て、子どもたちが健やかに社会を、未来を背負って行けるように私たち大人ががんばっていかなければならないと本当に思いました。私たちの闘いは、子どもたちが命をかけて痛みを訴えている、そこにどう具体的に向き合うか、引き受けていくかという問題としてあると思います。ここにいるみなさんとともに、この問題を診療所という形で、そして保養という形で、具体的に引き受けていることをとても誇りに思います。

あと福島で、労働運動として被曝列車を止めようとしている。それはゴアレーベンの説明でも言ってきたように、資本に対する、国家に対する具体的な後に引けない命の問題として、本当に真剣勝負で日々闘っている労働者が、もう福島にはきちんと立っています。このような決してぶれない、後に引けない、命そのものの理不尽とその場で闘い抜いていくという確固たる姿勢。それを土台にしてまた突き進んでいきたいなと思います。

これから診療所は、資金も、人件費も、スペースもいります。新たなステージを用意しようとしています。診察するだけでは終わらない被曝労働の問題、食の提案、心の引き受け方、持ち方、生活のあり方、すべての問題性をこの診療所というコアなところで、私たちは命に向き合って、被曝者に向き合って、提案し、獲得し、ともに洗練し、組み合って進んでいきたい。そういう関係性も築き上げていく、非常にコアな場所としてもうひとつステージをあげていきたい。診療所はもう一步進んでいきたいと思いますので、カンパのご協力をお願いします。

原発廃炉へ闘う現地から



中村 圭司さん
(NAZENえひめ・愛媛県職員労働組合副委員長)

伊方原子力発電所は、全原発が停止した直後から再稼働が一番近い原子力発電所として、維持されてきました。NAZENえひめは伊方原発の再稼働阻止で全力で闘います。ご支援をお願いします。



小笠原 厚子さん
(青森・大間)

私の母、熊谷あさ子は、誘致のはじめから大間原発に反対していました。母の土地は、敷地のど真ん中にあります。156人が買収に応じましたが、母一人が応じなかったんです。母は子どもたちの将来にこんな負の遺産を残したくねえと、村八分や、脅迫や、嫌がらせにあいながらも、守り通しました。

そして平成15年の夏に電源開発は、計画を200メートル変更し、母を共有地裁判という形で訴えてきました。当初、裁判になって1年後ぐらいに、和解するという形で判決が出る予定だったんですが、母は断固として「おら和解で決めたくねえ」って、弁護士を替えました。「おらよ、一日でも二日でも、三日でも長く延ばしたいんだ」って。「遠のくことによって、明日どう変わるかわかんねえべ」って。そのことによって、また2年間延びました。そうしたことによって、いまだに大間原発は動いてません。もし母が買収に応じ、裁判にすぐ負け、そういう状況だったら、向こうはトントントントン工事をして、今頃事故になってたと思います。

母は、海を守るため、先祖代々もらった土地を守るため、そして子どもたちの将来のため、安心した生活ができるために、がんばって参りました。そして私はいま、それを引き継いでおります。

職場・地域から

団結を固め9・15集会へ



織田陽介（NAZEN事務局長）

僕は、安倍の来広に対して、腹の底からの怒りで声をあげるために集まりました。自民党がつくってきた原発。彼らは責任をとりもしません。とれもしません。

汚染水一つとっても、収束なんて全くしてません。彼らは廃炉予算を計上すると株が下がると言う。廃炉にできないから再稼働。金儲けしたいという次元じゃない。原子力から足を洗えない、その力もない。絶望にむかって突き進むことに対して、僕らが断を下すしかない。

「プルトニウム燃料を軸にして再稼働しろ、日本が核武装する」とアメリカ。日本政府は対抗しながら、核政策を断固続ける。核戦争という意図もありあり。こんなやつらが、ヒロシマにくる。自分たちの手でたおしていくような闘いとして、ヒロシマの闘いがあります。

参院選 労働者民衆の勝利

参院選の山本太郎さんの当選、勝利を通して、僕ら労働者民衆がかちとったものは一つに、紫陽花革命を昨年よりもより根底的な怒りで実現したことです。

デモでは見えない、若い母親たちの被ばくに対する不安と怒り。政治を考えることも奪われている非正規の若者たちの怒り。根本的にこの社会はおかしいと、去年20万人の紫陽花革命を上まわる67万の数で怒りをたたきつけた。

「反原発」の怒りを軽んじる党派はすべて落選です。自分たちの思い、行動したいという決意の一票を投じられるような候補を、労働者民衆自身がつくって、勝利していった。労働者民衆自身の党を作っていく本当に大きな出発点をつくっていく選挙になった。僕ら自身が選挙を一

緒に闘って、この根底的な怒りと結びついていく挑戦をしていった。

二つは、労働者としての意識を膨大に作りだしていったということです。それは、自分たちがこの世の中を変えられる、社会の主人公なんだという意識です。国家がやれないことを僕らがやらなければならない。反原発運動を階級的に発展させていく位置が、今回の選挙にあった。

三つは、政府・財界と労働者民衆の関係が、非和解的なものとして鮮明になった。

民主党・連合の大敗北。明確に労働者にNoをたたきつけられ、多くの職場で労働者は山本太郎さんを支持したと聞いています。中間諸党派が基本的に落選した。自民党の「ナチスみたいにやればいいんだ」。「本当のこと」を言うのは山本太郎さんだけではなくて、自民党もかなり言う。他の中途半端なことを言う人がいない。世界大恐慌は本格化し、デトロイトが破綻。アベノミクスも破綻すれば、国家財政破綻と戦争です。こうした政府・財界と労働者民衆の非和解的な関係が、国会内にも持ち込まれた。

団結を組織できる力

職場で、地域で団結を必死に組織してきた。こうした力が人々から求められる。本気になって集まってくる1200人のボランティアスタッフが、ぶつかり合って、認め合って、化学変化を起こして、67万になっていく。この過程のひとつの媒介物になって闘えた。

民主党の歴史的分裂という中で、僕らがある種、労働者民衆を勝たせる力をぎりぎりもっていた。これから、労働者民衆の政治的決起の度合いは、加速度的に進む。僕らをもっと大きくなる政治闘争に通用するために、もう一度、職場から、地域から、労働者民衆を団結させる力を磨き上げて、もう一度政治闘争を大きくして勝たせていく。そういう中にこの社会を根本からひっくり返す力をみるんじゃないかと思う。職場でも、地域でも大変です。でもそこに夢がある。一ヶ月で情勢が変わった、労働者民衆が変えた、僕らが変わった。僕ら自身が1ヶ月で変わることもまた可能です。がんばろう！

国際連帯



★ドイツ★ゴアレーベンで共に闘う ヤニックさん

コンニチワ！ 私が住んでいるのはヒルデスハイムという10万人くらいの町で、32kmのところにはグローンデ原発があり、アッセには低レベル核廃棄物の最終処分場があります。グローンデ原発へのMOX燃料の運搬を阻止しようという去年の激しい反対運動では、海上で核燃料を運ぶ大きい舟を止めようとしたり、原発周辺ではキャンプを張り、トラクターで道を封鎖しました。体をはった阻止行動です。

00年にドイツ政府は**脱原発**を決めました
が、'10年に「経済的な理由で」**脱・脱原発**を決めました。しかし、福島原発事故をうけて、**脱・脱・脱原発**となりました。ただ、これは政府の戦略で反原発運動の力をなくすために「脱原発」といっているのだと、今も多くの方がデモを起こしています。私も、地元ヒルデスハイムでデモと、原発を包囲するという行動をやり、2万人が参加しました。

原子力村はどこにでもある国際的な問題なので、国際連帯がとても大事だと思っています。原子力の平和利用は、軍事利用と同じことです。ドイツで達成できたことは、日本でも必ずできます。山本太郎さんの当選や、皆さんの積極的な姿勢をみると、日本の力を感じます。最後に、大切なドイツのスローガンです。「不正がまかり通るならば、抵抗は義務である！」ダンケツ、ガンパロー！

★アメリカ★反戦ミュージシャン デビッド・ロビックスさん

パートナー・レイコさんの謳うような日本語訳の詞の朗読と共に「ヒロシマ」を披露し、会場を包み込んだデビッドさんのギターとうた



★韓国★イ・デスンさん(投機資本監視センター)



原爆投下から68年、そしてその後も一貫して数多くの民衆が帝国主義の生贄にされました。

民衆の敵は相手国の民衆ではなく、帝国主義者どもです。民衆の敵はまさに国際的に連携している金融資本家どもと多国籍企業です。最近の韓国と日本の領土問題も私たち民衆の不満をだますための巧妙な離間策です。福島原発の大惨事に対しても同じように思います。韓日両国の民衆の連帯でこれらの勢力を粉砕し、反核平和の新たな時代を開きましょう。



★沖縄★富田晋さん

オスプレイの強行配備、辺野古新基地建設の強行。おばあたちは世界規模の戦争が始まったと言う。戦時下の沖縄、全員が非正規、無権利で、生きられないと叫ぶ、青年の求めているものは？ 労働組合だ。本土復帰の中でなぜ「核抜き本土並み」だったのか。戦後労働運動の根幹であった被爆者の闘い。それが沖縄の基地労働者と繋がったら、世界中の核政策をひっくり返すような闘いになるからだ。僕自身、職場で労働組合を作って闘っています。組合書記長の青年が、ミスで人事異動させられ、それでも管理職よりもえらそうに闘ってる。そういう青年が膨大にうまれている。

元原発労働者から

斉藤 征二さん
(元全日本運輸一般労働
組合原子力発電所分会)



私はこの集会の直前にみなさん方の労働運動をめぐる格闘の言葉を聞いて、30年前原発分会を結成して闘った、あのころを思い出しました。本当に涙が出ました。

千葉動労の闘い、やはり労働組合ですから、ストライキをするのが当たり前なんです。連合みたいな、あれは労働組合じゃないんです。やはり闘う労働組合に地域の住民のみなさんも結集していただいて、原発の再稼働、そして核のない未来を子どもたちのために私たち一人ひとりが行動して、新しい一歩をつくっていかうではありませんか。

私はもう73歳になりましたけれども、戦争で親父を亡くした。この核というものは絶対にこの世にあってはならない。原発は核兵器なんです。あの中にはウランがあり、プルトニウムのMOX燃料というのがあります。福島(第一3号機)がそうではありませんか。もし今後大きな地震が起きて、あの原発が爆発したら、日本は壊滅ですよ。壊滅しないうちに早いとこ廃炉にする。それが私たちの今後の闘いだと思います。

被曝労働阻止ストライキ報告



石井真一さん
(国鉄水戸動力車労働組
合委員長)

JR水戸支社は福島第一原発から30キロ地点、広野駅にあった、被曝した電車K544、この車両の交番検査、これをやれという被曝労働の強制を行って来ました。これに対して動労水戸は7月12日にストライキ

に突入しました。そして7月16日、交番検査の当日ですね、その日に全面的なストライキを構えて、全国からとくに福島や動労千葉、関東の仲間も勝田車両センターの前に150名の結集で断固として登場して、この被曝労働の強制に断固対決して来ました。

そして、この日に交番検査は実質上中止に追い込まれました。その車両は電気機関車で郡山の総合車両センター、郡山工場に移送されたわけですけども、そこでも郡山の労働者にさらにひどい点検をやるということをしてJRの仙台支社は強制するわけですね。それで、ここにいる橋本君が、そこで「水戸から交番検査をやっつねえぞというふうに聞いている」と、仙台支社は線量を測つてねえじゃねえかと、ふざけんなどということ郡山工場に闘いが、国労の仲間闘いが引き継がれて、拡大することになりました。

16日のストの次の日、広野から二駅先の竜田延伸が発表されて、JRとしても旧警戒区域に乗り入れることは意義がある、前向きに取り組みたいと。8月には線路の開通工事をやると言っているんですね。われわれはこんなことは絶対許せねえんだということで安倍政権と断固対決して、すべての原発をここにいる仲間とともにね、なくせと、廃炉にしろと、国際的に団結して闘おうということです。

郡山で開始された被曝労働拒否



橋本 光一さん
(国労郡山工場支部)

今、郡山工場においては、動労水戸の被曝労働拒否の闘いを引き継ぎ、労働組合の力で原発を止める取り組みを、地区の労組交流センターに結集するNAZENの仲間と一体となって進めています。

国労郡山工場支部では、このK544を迎え撃つべく、支部分会全役員会議を開催し、線量の測定と公表、内部被曝対策を要求し、大衆的

な運動をつくり抵抗していくことで一致しました。組合員は連日の現場長への追及行動を闘い抜いています。国労がヘゲモニーをとれる職場では当局に防護服、マスク、ゴーグルなど、原発作業者と同様の防具を準備させました。そして若手社員をK 544 の作業から除外することを認めさせることを勝ち取りました。

車両の線量を測定した結果、工場敷地の空間線量とさほど変わらないことがわかったとき、執行部の一人が、問題の本質は線量じゃないんだと、追及すべきはこのJRの姿勢であって、社員に対しても、地域住民に対しても社会正義から外れている、測定もしない、対策もしない、それを許していいのかということなんだよという核心をつく発言をしたことは決定的でした。郡山工場における反原発の闘いは、このように被曝労働に反対する反合理化・安全確保の闘いとして行われております。防護服を着て初めて原発労働者の辛さがよくわかったとみんな言いました。

労働組合の力ですべての原発廃炉を実現していきたいと思えます。

新自由主義を打ち破る労働運動



川崎 昌浩さん
(国鉄千葉動力車労働組合
執行委員)

安倍政権は人々を日々被曝させ、今の福島が直面している現実を封印して、原発再稼働と海外への原発輸出を進めようとしています。この姿こそ破産し、腐敗しきった新自由主義の姿そのものではないでしょうか。

反原発闘争、反戦反核闘争の勝利の原動力は何よりも労働者階級の闘いであり、労働組合が真っ先に掲げなければならない問題だというふうに思えます。

そしてもう一方では、国鉄分割・民営化以降の新自由主義攻撃のもとで労働者の非正規化、貧困化が進み、労働者は生きられない、日々労

働者が殺されている、そういう現実が強制されています。こうした資本に対する労働者の階級的な怒りが原発を廃炉に追い込み、社会を変えていく核心的な力であり、労働者階級の闘いこそが、全原発廃炉の展望を切り開くというふうに確信しています。分割・民営化から始まった新自由主義による民営化と非正規化攻撃、そして反原発の闘いはまさに一体の攻撃であり、これとの闘いが求められているというふうに思えます。

核兵器や原発を地上から廃絶する道は労働者階級の国際連帯以外にありません。

私たちは今日明日のヒロシマ大行動を全力で闘い抜くとともに、9・15労働者集会、そしてこの力で11月3日の全国労働者集会への1万人結集を絶対に実現して、社会を変えるその核心が我々の闘いにあるんだということを見せつけたいと思えます。

ともに闘い抜きましょう。

閉会あいさつ

鈴木 達夫さん
(弁護士・NAZEN
よびかけ人)



本集会において、全世界のすべての原発を廃炉にするその鍵を手にすることができたと思えます。ひとつは、低線量内部被曝の問題が私たちNAZENの闘いの大きな基礎となっている。二点目に、これを実現していくことが、何よりも労働者階級の双肩にかかっているということ。労働者階級の闘いと、その国際連帯。それを軸とした全人民の闘い、これこそが私たちが勝ちに行く水路だと思えます。

東京でまさに100万人の怒りの決起が実現されました。山本太郎さんの勝利です。私たちは安倍が再稼働に踏み出すならば、本当に100万の決起で応えましょう。伊方だろうと、川内だろうと、国会だろうと、でたらめをやる悪政を100万の決起でぶっ飛ばそうじゃありませんか。(拍手)

保養・避難交流会

(8月5日 広島にて)

やりました!



8月5日、広島において、保養・避難交流会を70名で行いました。保養運動どうしの経験や課題の共有、これから始める人が学ぶ場としても、とても意義深いものとなりました。事務局の責任でまとめて報告します☆

最初に、事務局・保養プロジェクト担当の伊谷から、「今から何万、何十万という保養運動を僕はつくりたいと思っています。保養がすごく大切なんだと、生きた生の声にしていかないと」と熱い思いを語った上で、いくつかの問題提起。①去年のヒロシマのスローガン「ヒロシマ・ナガサキは福島を怒りとともにする」が、一年してヒロシマとナガサキの保養の取り組みに至った。「この宝を育ていかないといけない」。②国の責任を追究し、今のあり方を変えるのは、労働者民衆の力であり、労働者民衆の団結した力を拡大することを保養のテーマにしたい。③保養、避難、医療にかける思いは一つだ。保養運動に関わる人たちにも、ふくしま共同診療所の運動が伝わっている。診療所が生み出した希望をもっと豊かに広げるものとして進めたい。以上三点の提起の後、ふくしまからの提起がありました。

◎NAZENフクシマから

保養の受け入れ側は、大変な労力と、子どもさんを預かる緊張、大変な中で行われていると思います。本当にありがとうございます。

長崎にいった子どもたちは海で遊べたことがものすごく楽しかったと。福島では、プールは再開しているところであっても、とても入る気にはなれないという声が聞かれます。

単に彼らも長崎に海に入りに行くということ

だけではないんだな、ということも感じました。福島からも、広島・長崎は特別な思いがあります。被爆者の声が聞きたい、スケジュールにいられてほしいという声もあります。

ある保養団体は、「心待ちにしています、スタッフ一同」というお手紙を出していました。マスクをしている子どもは少数、食べ物を気にしているのは自分だけだと思っちゃったり。そういう中で、福島を出て、自分が歓迎されることはすごく大事ななと思いました。

日程について。7月18日が高校、19日が小中の終業式。7月20～27日は、部活も含めて学校行事が集中する期間です。福島ですので、授業が始まるのは東京より早く、8月26日に始業式があります。8月22～25日は子どもが宿題に追われる期間。7月27日～8月10日というのが行きやすい期間です。親子保養を組み合わせたいなら、週末の2泊3日で設定するとか、福島からの距離に応じて対象者も変わっていく。自力で移動できる年齢設定にして、保養のプランを。

ある学校におじゃましたときに、学校事務さんが、早めにわかったら是非行きたいと。夏休みのものはゴールデンウィークに説明会をやっていたり、そういうことも求められると思います。夏休みだけでなく、通年やっているところも。

特別なことじゃなく、日常を福島と違うところで過ごせるということは大事ななと思います。

「NAZENとしてどう保養を取り組むのか」はテーマです。診療所とつながってやりたいという声があります。診療所も来院した子どもさんにチラシの束を渡し、掲示板にも張った。それ以上のこと、紹介まではできても組織するところまでできるのかということがあって。患者さんの声と

しては、長崎とか遠方から保養のお知らせが来ていること自体がうれしくなると聞いています。

学校行事、部活やスケジュールとの関係から言っても、学校全体の理解はすごく重要。国家、政府がやらないことを自分たちがやっていく、学校丸ごと、地域丸ごとを突き動かしていくような運動をする、いろんな人の力を引き出しながらかつていくということが大事。

労働者としては年休問題はあります。職場で取り組める、保養休暇をのための闘いも必要になっていくと感じています。

子どもが安全キャンペーンに動員される宣伝の中で、保養に行く人が減ってきている、その中で保養の重要性、意義と課題が問われていると思います。

◎討論のまとめ

討論ではたくさんの意見が出されました。すべてが大事な意見でしたが、印象に残ったものを不十分ですがまとめます。

ひとつは、広島と長崎の思い、放射能に苦しめられ、立ち向かい、何が起きるかを知る者の思いやりとエネルギーです。

「なんとしても広島へと、保養を呼びかけてきました。核時代の始まりが広島、核と人間は共存できないという人として生きる共通認識を、ヒロシマ・ナガサキを伝えることができず、それでフクシマがおきてしまったという思いから」「放射能、にあわず、見えず、境がない。ナガサキ、ヒロシマ、ビキニ、フクシマをつないで、対峙するものが誰なのかを明らかにしてくれた。保養を続けながら福島の人たちに立ちあがって下さい、援護法と保養のサナトリウム、丸ごと勝ちとって下さいというのが保養の目的」(広島から室本さん)。

「広島と長崎は、放射線の恐ろしさを一番身に染みて知っている。私自身、被ばくしたあと10日後くらいから長崎にはいませんでした。私たちは原爆の後遺症が出なかった。私たちと一緒に遊んでいた隣の子もたちは、早くに亡くなってしまった。近所の親友は、ひどい後遺症になっています。そういう人たちを見送ってきたので、やっぱ

り長崎を出たことだったんだ、と」(長崎から城臺さん)。長崎の保養カンパも、毎月9日の被爆者の集まりや、昔の教え子から多く集まったことも報告されました。

ふたつは、労働運動と市民運動の関係です。

「労働者『しか』とは言わないで下さい。市民にも必要な全体性がある陣形、NAZENがきちっと具体的なことを引き受けられる陣形として成立させていく、そうした底力をもっている。どこに向かっていけばいいのか、ということ、福島を助けて下さい、あなたの力が必要です、その一点で繋がるという両面が大事」(福島から椎名さん)。

「阪神大震災のときは、行政闘争していなかったら生きていけなかった。子どもたちが一番放射能の汚染を浴びる。私がいざしたら、役所に週に三日はバスをチャーターしてやるかなとか思ったり。具体的な話でつながりながら、実力でもぎりとする生存闘争を組織していくことと一体で、何よりもふくしま共同診療所を中心にすえて運動を展開していきたい」(関西から山本さん)。福島現地で、そして自分の職場でもどう団結していくかという視点が出されたことの重要さです。

三つは、子ども自身が保養の中で成長する主体、力をくれる主体だということです。

「信頼関係が生まれて、ゆったりと福島では始まらない時間、ともに生きている共生感。子どもってそういうのが入ったら抜けません。そして必要なときに反対の立場に立てる。保養はそういうすごい闘い」(椎名さん)。長崎からは、体調が悪かった仲間が高校生と触れあって元気になり、反原発運動を続ける力をもらったという報告も。

他にも、ドングリや落ち葉を福島の保育園などに送る活動や、ネット上の基金を訴えるホームページを使って募金を集める方法を紹介してくれる人や、東京・関東に住む子どもの保養の必要性、食事と水の内部被ばくとどう向き合うかの取り組みの課題なども出されました。

まとめでは、広島の伊豆さんから、来年の3・11福島にあわせてまた交流会を持ちたいという提起を全体で大まかに確認しました。たくさんの実践を積み重ねて、また会いましょう☆

富士山のふもとで夏休み



保養基金にご協力も!

NAZEN東京が取り組む初の保養は、当初の3泊4日から2泊3日に変更して、8月22日～24日に行われます。場所は富士山のふもとの北富士です。先日、山梨の仲間と同行願って、下見に行ってきました。朝方は民宿の2階の部屋から富士山が目の前に見え、すぐそばの川は10秒間も手を入れておけないほど冷たく、想像以上に自然味に満ちあふれたところです。活字ではとても伝えきれません。福島の子どもたちに、この自然をぜひ味わってほしいと思います。

この間の集会や振込などで全国から保養基金への暖かいカンパが寄せられ、現在10万円強が集まっています。本当にありがとうございます。2泊3日に短縮し人数も減らしたものの、依然として資金が不足しております。宿泊費と交通費がほとんどですが、8月12日時点でなお10万円弱足りません。首都圏をはじめ全国のみなさんのカンパを繰り返しお願いします。(伊谷)



NAZENの活動をぜひ年会費で支えて下さい。毎月の通信を発送致します。年会費は、個人一口2000円、団体一口3000円です。個人の2000円は、半額ずつ各地のNAZENと全国財政として使われることとなります。会計年度は1月1日～12月31日です。

全国でつながり、原発と核のない社会をつくるため、ぜひ納入をお願いします。



2013年前期会計報告

2013年の1月から7月までの会計を前半期として報告します。8月の行動の経費が未精算なため残金が大きくなっています。全国通信を発行し始めたことで、通信の売り上げが入り、年会費も入り始めていますが、後期の運動をさらに推し進めるために、全国から年会費の納入、カンパをよろしくお願いします。

収入の部

繰り越し	66,799
会費	166,000
パンフ代金	25,000
カンパ	23,302
幟売り上げ	3,000
会議参加費	12,000
通信会計残金	4,286
収入計	300,387

支出の部

電話代	15,618
旗開きや香典費	5,000
賛同金	3,080
交通費	28,800
印刷費	11,198
郵送費	7,548
会場費	14,200
講演謝礼	30,000
事務経費	4,238
振り込み手数料	3,240
支出計	122,922

収支残金 177,465

◆◆◆ 郵便局 振替口座 ◆◆◆

口座番号 00120-8-763817

加入者名 すべての原発いますぐなくそう!全国会議

銀行口座からの振込の場合 ○一九店 0763817

※振り込みの際は、「年会費○人、○団体分」

「保養基金カンパ」などお書き下さい

◆◆◆ 診療所基金はこちら ◆◆◆

福島診療所建設委員会の口座へ

★郵便振込口座 02200-8-126405

福島診療所建設基金

★銀行口座

福島銀行 本店(110)普通 1252841

福島診療所建設基金 代表 渡辺 馨

★PayPalでのお振り込み

アカウント

clinicfukushima@yahoo.jp

渡辺馨(福島診療所建設委員会)

